

講義名	対1)基礎簿記					授業形態	
担当教員	木村 敬夫	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限				
		単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング・コード	ACC140

主題と概要
経済単位が行う経済活動（経済的資源の配分）を、認識、測定、記録、計算、分類、整理、要約、報告する方法が「会計」である。その会計の技術的な側面を担うのが「簿記」であると言える（帳簿記録の略称とも言われる）。簿記は会計の一側面を形成し、一機能を担うと考える。 基礎簿記はその対象を生産経済としての「企業」（会社）の「簿記」（企業簿式簿記）に限定し、企業簿記の基礎構造（記録計算等）を理解することにある。 経済の一翼を担い商業（第三者が生産した製品を仕入れ、第三者に販売する）を含む企業の「経済（事業）活動」を対象として、その活動を記録、計算、分類、整理する技術である企業簿式簿記の仕組みを基礎から始める。「企業」の設立、営業の開始、営業活動、営業外活動、経済活動の成果を一定期間に区切り（決算・会社法年1回、12か月）、これを財務諸表等と呼ぶ報告書に要約する方法が講義内容となる。経済活動を財務諸表に要約し、開示することが会社法等に規定されていることから、経済活動の認識測定報告等は会計諸法規（例えば、会社法、会社計算規則、企業会計基準等）を前提としない限り計算書類等を作成することが出来ないために、一定範囲で関係する会計諸規則等にも言及しながら講義を進める。

到達目標
会計機能のうち、「簿記」が担う基本機能（記録計算集計）等を理解する。

提出課題
オンラインによる課題提出は、友人同士で課題のやりとり、NET情報の受渡交換が行われる可能性が否定できない。 提出課題は各自が取り組むことを前提として、毎回（講義）1,000から1,500字程度の「論述レポート」（課題）を求める。これにより、第三者等からの書き写し行為をチェック出来るとともに（不正行為である）、スクリーニングを行って、その程度を測定することを可能とする。 課題提出は15回講義で11回以上が単位取得の第一条件、次に提出課題の内容となる。これには、講義日終了後、対面講義の試験に相当すると判断する課題「レポート」（3,000から4,000字）の提出を求める。同レポートは15回目の最終講義に課すもので、対面履修者の「試験」に相当するものであるから、必ず提出することが単位取得の条件となる。同レポートの課題・テーマは、最終講義日に公開し、その提出期限は2から3日程度とする。詳細は連絡する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
必要があるとした場合、連絡事項として開示する。

評価の基準
課題提出は15回講義で11回以上が単位取得の第一条件、次に提出課題の内容となる。これには、講義日終了後、対面講義の試験に相当すると判断する課題「レポート」（3,000から4,000字）の提出を求める。同レポートは15回目の最終講義に課すもので、対面履修者の「試験」に相当するものであるから、必ず提出することが単位取得の条件となる。同レポートの課題・テーマは、最終講義日に公開し、その提出期限は2から3日程度とする。詳細は連絡する。

履修にあたっての注意・助言他
「簿記」は、紙、筆記用具と電卓を用具とした、一面技術である。技術は、時間をつかい慣い、復習し、磨く必要がある。また、技術は、一旦、使わなくなると失われる可能性がある。したがった、受講者は、簿記の理解には会計現象の記録計算分類等の行為を各自で処理・学習する必要がある。

教科書
.使用しない。

参考図書

その他
テキストは指定しない。講義資料をポータル（PDF）に発信し、練習課題等は講義室で配布する。各自、印刷、または自宅などで資料を確認できるようにすること。 ジャコブソール『帳簿の世界史』（文春文庫） 必要に応じて、講義資料をポータル（PDF）に発信し、それ以外は講義室で配布する。

授業計画
第1講 簿記の定義・目的 第2講 複式簿記の構造（1） 第3講 複式簿記の構造（2） 第4講 簿記会計の諸法・簿記における認識・測定 第5講 取引の記録と勘定の表示分類(1) 第6講 取引の記録と勘定の表示分類(2) 第7講 取引の記録と勘定の表示分類(3) 第8講 取引の記録と勘定の表示分類(4) 第9講 取引の記録と勘定の表示分類(5) 第10講 取引の記録と勘定の表示分類(6) 第11講 取引の記録と勘定の表示分類(7) 第12講 取引の記録と勘定の表示分類(8) 第13講 決算の処理（1） 第14講 決算の処理（2） 第15講 財務諸表の作成

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
事前に講義テーマの準備と講義テーマに関連して課題を各2時間を必要とする。各講の講義資料は各自が事前に学習を可能とするために、講義日4日から5日以前に公開し、提出課題は講義日当日（講義時間相当時間）に開示し、開示時から24時間程度で提出を求める。なお、講義資料・提出課題は、講義日相当時間を経過後、削除する。適切な時間にダウンロードすること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
企業の会計情報を収集、分析するための初歩的な知識を身につけることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考